

南砺市バイオマス産業都市構想



平成 28 年 7 月

南 砺 市

はじめに

本市は、平成16年11月1日に8つの町村（城端町、平村、上平村、利賀村、井波町、井口村、福野町、福光町）の合併により誕生しました。

市内の産業構造は、平野部と山間部で異なり、平野部はアルミニウム、橋梁・建築建材、工作機械等を中心とした製造業、山間部では建設業や観光産業などサービス業の就業割合が高くなっており、多様な産業を有する都市となっています。

しかし、本市においても、少子高齢化の進捗等により人口減少局面を迎え、高齢者世帯の増加などの地域構造の変革が進むとともに、地球規模の気候変動等による環境保全やエネルギーの問題など複雑化する課題への対応が求められています。

このような中、本市では、人と人、そして人と自然の関係を改めて問い直しながら、目に見えない豊かさを実感できる「新しい暮らし方」で、地域をどうデザインしていくかという視点に立ち、「環境保全・エネルギー」「農林漁業」「健康・医療・介護・福祉」「教育・次世代育成」の4つの分野が相互に連携・運動しながら、地域の自立と循環を図っていくことを目指すこととし、このためのビジョン（構想）として、平成25年3月「南砺市エコビレッジ構想（以下エコビレッジ構想）」を策定し、各種の政策を進めております。

特に、「環境保全・エネルギー」の分野においては、エコビレッジ構想に先駆け、市内の豊富なバイオマス資源の活用を視野に、平成23年2月にバイオマスタウン構想が策定し、エコビレッジ構想の取組の一環として、桜ヶ池クアガーデンに再生可能エネルギー施設の導入が進めています。

本計画は、「エコビレッジ構想」、「バイオマスタウン構想」の理念や取組についてさらに進め、地域の活性化に資する地域産業創出にむけた具体的な取組を取りまとめたものです。

本計画の策定に際しては、金沢大学の市原あかね先生を委員長とする「南砺市バイオマス産業都市構想策定委員会」委員の皆様にご多大なるご尽力をいただきました。ここに関係各位のご労苦に対し、深甚なる感謝の意を表します。

本構想が、本市におけるバイオマス関連産業の創出・振興の礎になるとともに、次世代にむけたまちづくり・暮らしづくりにつながることを祈念して、ご挨拶と致します。

平成28年7月
南砺市長 田中幹夫

目 次

はじめに

1	地域の概要	1
1.1	対象地域の範囲	1
1.2	作成主体	1
1.3	地理的特色	1
1.3.1	位置・地勢	1
1.3.2	気候	2
1.3.3	交通体系	3
1.3.4	主要施設	4
1.4	社会的特色	9
1.4.1	歴史・沿革	9
1.4.2	人口	10
1.5	経済的特色	12
1.5.1	産業別人口・事業所数	12
1.5.2	農業・畜産	14
1.5.3	林業	18
1.5.4	商業	22
1.5.5	工業	24
1.5.6	廃棄物処理計画	25
1.5.7	再生可能エネルギーの取組	27
1.6	地域の概況のまとめ	30
2	地域のバイオマス利用の現状と課題	31
2.1	バイオマスの種類別賦存量と利用量	31
2.2	バイオマス活用状況及び課題	32
3	目指すべき将来像と目標	33
3.1	背景と趣旨	33
3.2	目指すべき将来像	33
3.3	達成すべき目標	34
3.3.1	計画期間	34
3.3.2	バイオマス利用目標	35
4	事業化プロジェクト	36
4.1	基本方針	36
4.2	事業化プロジェクトの内容	37
4.2.1	木質燃料製造・供給事業	37
4.2.2	もみ殻活用事業	43
4.2.3	事業系生ごみ等の活用事業	46
4.2.4	パーク（樹皮等）の発酵活用事業	49
4.2.5	バイオマス資源を活用した五箇山世界遺産観光プロジェクト	51
4.2.6	主要プロジェクトのまとめ	56

5	地域波及効果.....	57
5.1	経済波及効果.....	57
5.2	新規雇用創出効果.....	58
5.3	二酸化炭素排出削減効果.....	58
5.4	その他の波及効果.....	58
6	実施体制.....	59
6.1	構想の推進体制.....	59
6.2	検討状況.....	60
7	フォローアップの方法.....	61
7.1	取組工程.....	61
7.2	進捗管理の指標例.....	62
7.3	効果の検証.....	63
7.3.1	取組効果の客観的検証.....	63
7.3.2	中間評価と事後評価.....	63
8	他の地域計画との有機的連携.....	64

1 地域の概要

1.1 対象地域の範囲

本構想の対象範囲は、富山県南砺市全域とします。

本構想では、地域内で供給されるバイオマスの活用を地域内で活用する地産・地消を前提としていますが、地域内で消費しきれない生産物の販売にあたっては、周辺地域をふくめた広域に販売していくことを想定しています。

1.2 作成主体

本構想の作成主体は、富山県南砺市とします。

1.3 地理的特色

1.3.1 位置・地勢

本市は、富山県の南西部に位置し、北部は砺波市と小矢部市、東部は富山市、西部は石川県金沢市と白山市、南部は1,000メートルから1,800メートル級の山岳を経て岐阜県飛騨市や白川村と隣接しています。

面積は668.64平方キロメートル（東西約26キロメートル、南北約39キロメートル）で、そのうち約8割が白山国立公園等を含む森林であるほか、岐阜県境に連なる山々に源を発して庄川や小矢部川の急流河川が北流するなど、豊かな自然に恵まれています。また、市北部の平野部では、水田地帯の中に美しい「散居村」の風景が広がり、独特の集落景観を形成しています。



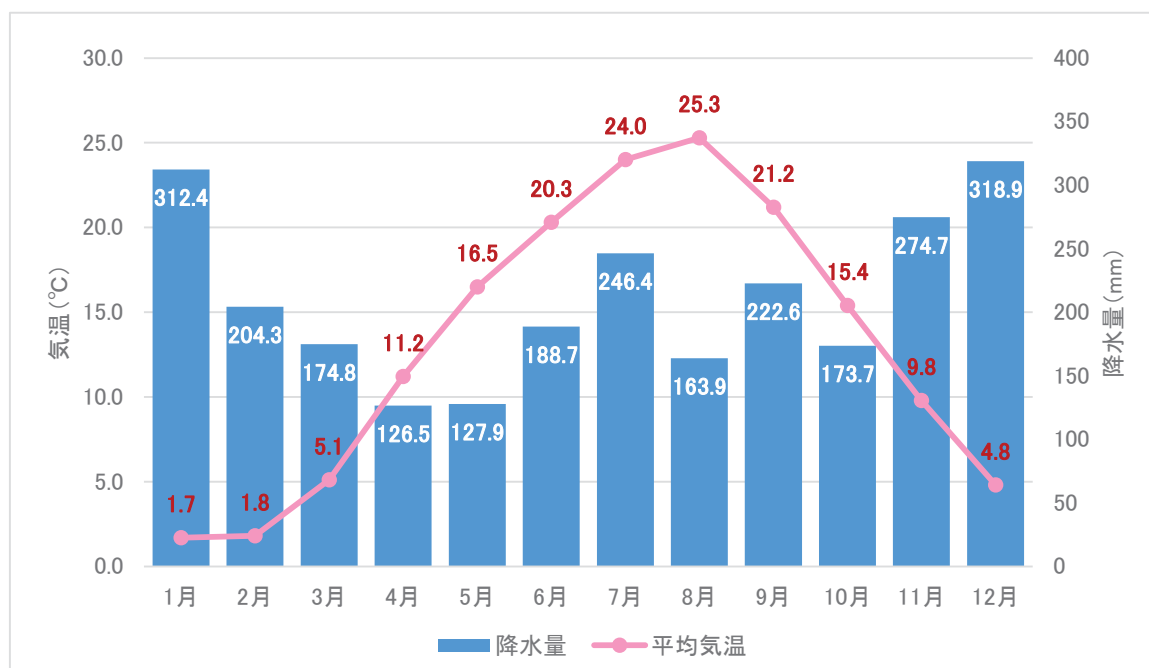
（出典：南砺市周遊ロードマップ（南砺市観光協会））

図 1.1 市の位置

1.3.2 気候

気候は、典型的な日本海側気候で、冬は寒く、降水・降雪量が多い地域です。月別の気温をみると、8月の平均気温が25.3℃、1月の平均気温が1.7℃と季節による寒暖の差が激しく、年平均気温は13.1℃となっています。

なお、城端、平、上平、利賀、福光の各地域は、特別豪雪地帯に指定されており、山間部では最大積雪深が3メートルを超えることもあります。また、平野部では春先の強風や台風、冬の雪、夏の暑い日差しを遮るため、散居村特有の「カイニョ」と呼ばれる屋敷林で家屋を守っています。



(出典：富山地方気象台（南砺高宮）)

図 1.2 市の月別平均気温及び平均降水量（1981～2010）

1.3.3 交通体系

本市は、富山市から約 40 キロメートル、石川県金沢市から約 30 キロメートルの距離にあり、国道 156 号、304 号、471 号を南北軸に、主要地方道等の整備が進められています。また、市内を運行する JR 城端線は、市民や観光客の交通手段として利用されているほか、主要な路線には路線バス・市営バスが運行されています。

高速交通網は、平成 20 年 7 月に全線開通した東海北陸自動車道により、中京圏との時間・距離が大幅に短縮され、交流人口の更なる増加が見込まれています。また、富山・小松両空港まで約 1 時間でアクセス可能なことから、多彩な産業や観光の発展が期待されています。

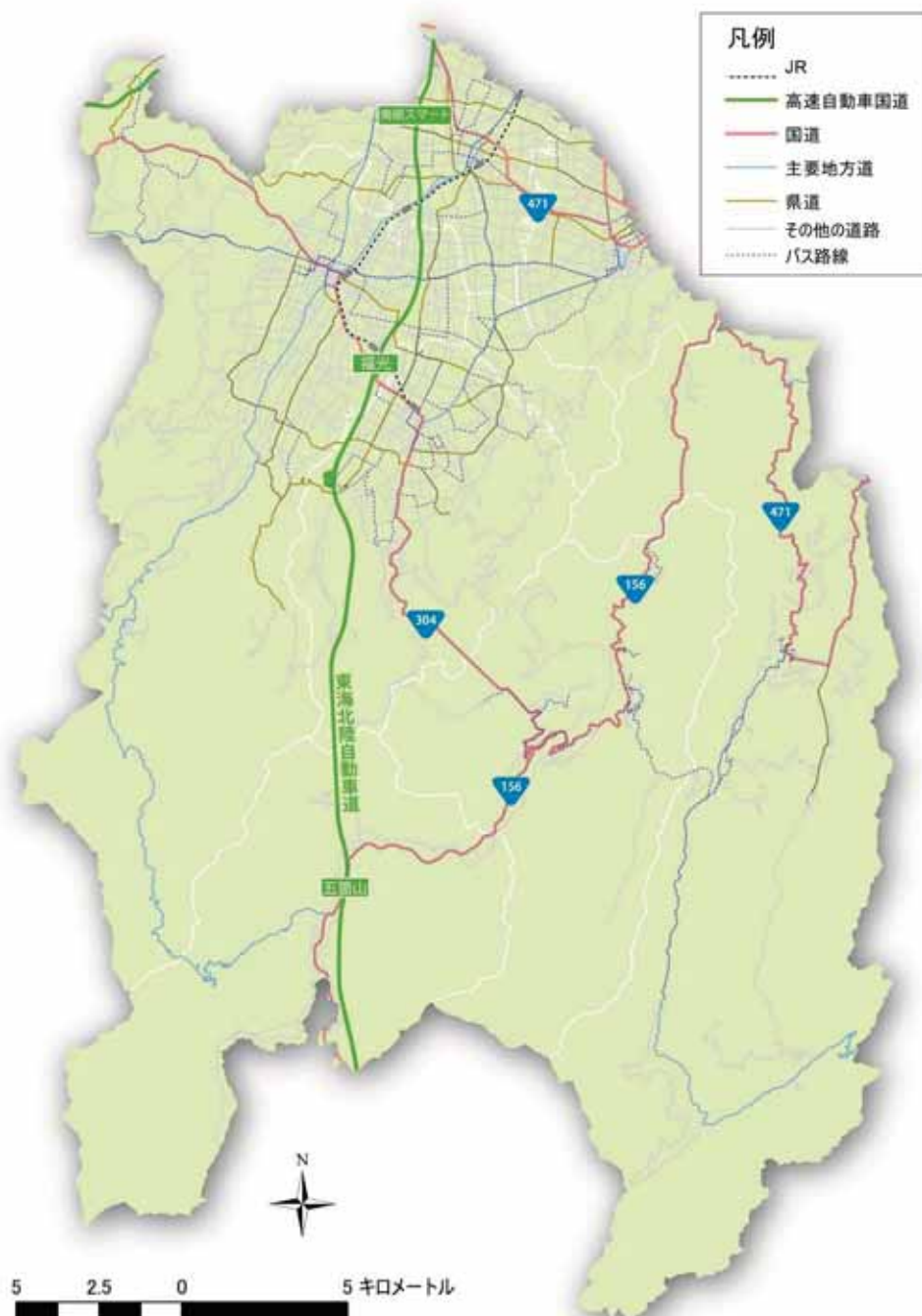


図 1.3 市の交通網

1.3.4 主要施設

(1) 市役所などの主要公共施設の分布

本市では分庁舎方式を採用しており、福野、福光、井波、城端の4庁舎が設置されています。また、旧町村毎に行政センターが開設されており、地域の行政窓口として機能しています。



図 1.4 市内の主要公共施設の分布

(2) 自然・景勝地

本市には、世界遺産の「越中五箇山相倉集落」、「越中五箇山菅沼合集落」をはじめとする史跡があります。五箇山の合掌づくりは主に江戸時代末期から明治時代末期に建てられたものですが、最も古いもので、17世紀にまでさかのぼると考えられています。

また、フローラルパークやつばきの園などの植物園や、樹齢 750 年を超える「巴塚の松」などの自然景勝地があります。



図 1.5 市内の自然・景勝地の分布

本市には、世界遺産の五箇山集落にある五箇山温泉をはじめとする温泉施設が点在しています。また、温水プールと温泉施設を備えた桜ヶ池クアガーデンや、福光と城端に温水プールがあります。



図 1.6 市内の温泉・プール・宿泊施設の分布

(4) 医療施設

福光、福野、井波の各地区中心部に、診療所・歯科医院が集中しています。また、市内中央部・東海北陸自動車道 福光インターチェンジ近くに、公立南砺中央病院や、認知症疾患医療センターを開設している国立病院機構北陸病院があります。



図 1.7 市内の医療施設の分布

(5) 観光施設

南砺市の特産であるバットに関する「南砺バットミュージアム」や版画家の棟方志功が南砺市に約7年間生活をしたことに関連する記念館「愛染苑」などの美術館・博物館があります。

また、市内に道の駅が4つあり、休憩所、レストランを備え、南砺市の物産品なども販売しています。



図 1.7 南砺市の観光施設の分布

1.4 社会的特色

1.4.1 歴史・沿革

平成16年11月1日、8つの町村（城端町、平村、上平村、利賀村、井波町、井口村、福野町、福光町）が合併し、「南砺市」が誕生しました。

この地域の歴史は古く、立野原台地から約2万年前の旧石器時代を中心とする遺跡がたくさん発掘されています。大量の石器が出土しているほか、縄文時代の竪穴式住居跡なども確認されています。奈良・平安時代には、小矢部川流域の平野部で荘園が発達し、高瀬遺跡では荘園の役所跡と思われる掘立柱形式の建物群が見つかっています。

中世になると、浄土真宗の瑞泉寺や善徳寺が建立され、時には一向一揆の拠点ともなりました。近世にはそれぞれ井波や城端が門前町として栄えました。

平野部では加賀藩の支配下で新田開発が進められ、一方、五箇山では、養蚕や和紙のほか、火薬の原料となる塩硝づくりが行われました。

そして、近代から現代にかけて、その時々为社会経済情勢の大きな流れに的確に対応しつつ、生活環境の充実や社会資本の整備等、地域特性を活かしながらの町づくり、村づくりに取り組まれてきました。

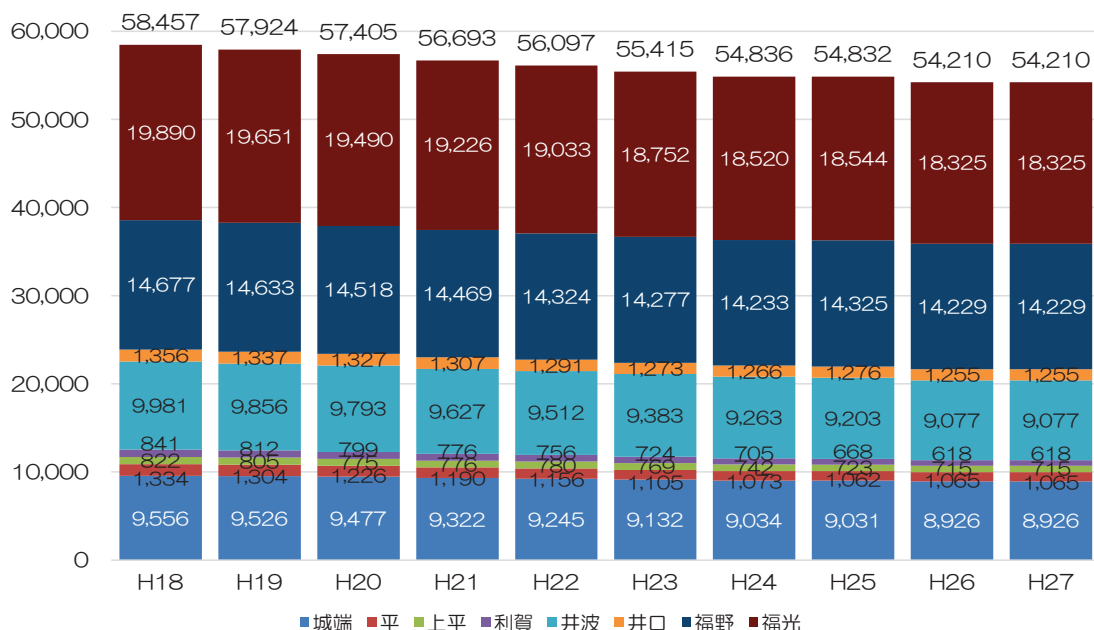
本市のうち、旧平村、旧上平村、旧利賀村、旧井口村は、明治の町村制施行により村域が形成されており、旧城端町、旧井波町、旧福野町、旧福光町は、さらに昭和の大合併を経て町域が形成されたという歴史的経緯があります。近年は道路網の整備や広域行政の推進により一層、地域間の結びつきが強くなってきたことから、平成の大合併に至り、現在の「南砺市」が形成されています。

1.4.2 人口

本市の人口は、平成 16 年の合併後、各地域とも人口は減少傾向にあり、平成 18 年で 58,457 人だった人口が平成 27 年では、54,210 人となっており、過去 10 年間で約 1 割人口が減少しています。

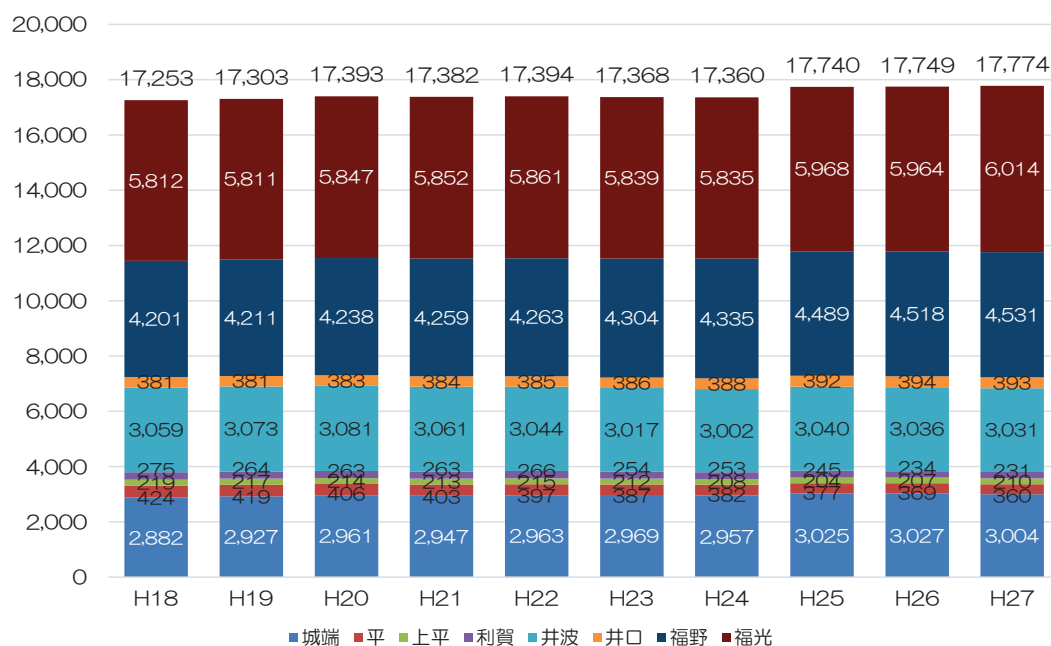
一方で世帯数は、平成 18 年は 17,253 世帯から、平成 27 年は 17,774 世帯となっており、横ばいとなっており、世帯規模が縮小していることが分かります。

また、本市の人口における 65 歳以上の高齢者の割合は、合併直後の平成 18 年は 27.6%でしたが、平成 26 年度は 34.1%に増加し、県全体と比較すると 4.5%高い割合を示しています。



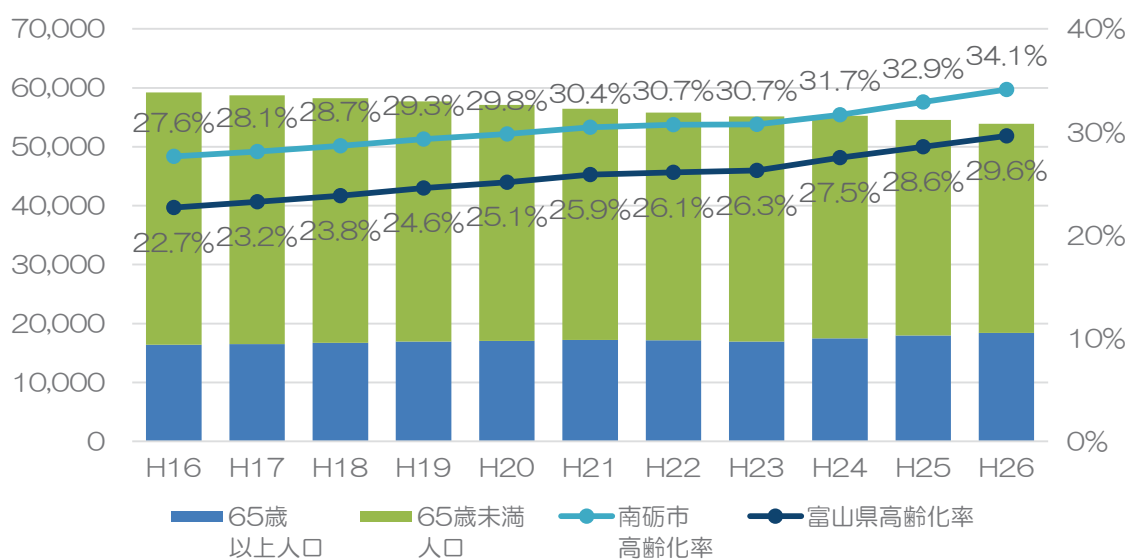
(出典：南砺市の統計（各年 4 月 1 日）)

図 1.8 市の人口



(出典：南砺市の統計（各年 4 月 1 日）)

図 1.9 市の世帯数



(出典：南砺市の統計、とやま統計ワールド)

図 1.10 市の人口と高齢化率

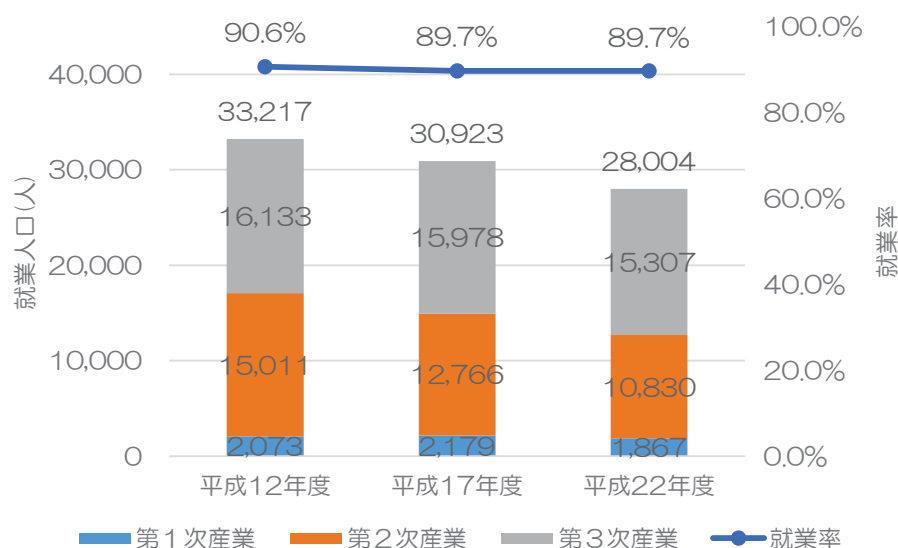
1.5 経済的特色

1.5.1 産業別人口・事業所数

(1) 産業別人口

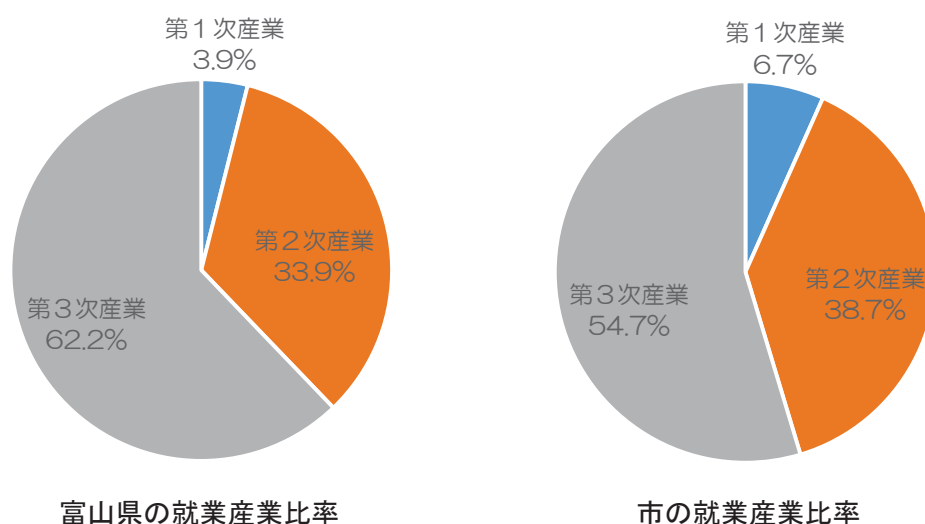
市の総就業者数は減少が続いており、就業率も横ばいからやや減少傾向にあります。特に第2次産業（鉱業、建設業、製造業）就業者数は、平成12年度から平成22年度の10年間に27.9%減少しています。

産業別就業人口の構成をみると、富山県全体と比較すると、第1次産業、第2次産業の割合が高くなっています。



(出典：国勢調査(各年))

図 1.11 市の産業別15歳以上就業者数と就業率



(出典：平成22年国勢調査)

図 1.12 富山県と市の就業産業比率